

社会性報告

企業ステートメント

クラレグループ行動規範

コンプライアンス・ハンドブック

トップステートメント

サステナビリティ・マネジメント

安全報告

環境報告

社会性報告

職場での取り組み

社会とのかかわり

コーポレート・ガバナンス

GRIスタンダード対照表
(内容索引)

クラレレポート（統合報告書）/ サステナビリティウェブサイト

ランドセルは海を越えて

職場での取り組み

社会とのかかわり

社会とのかかわり

社会とのかかわりの目標と実績

目標	実績	評価と課題	2020年度目標
【学術】 「ランドセルは海を越えて」キャンペーンの着実な実行	<ul style="list-style-type: none"> ・送付実績7,938個 ・Websiteを通じて的一般募集、及び各事業所から近隣小学校へランダセル提供を募った 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実行。次年度も同様の取組を継続していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ランドセルは海を越えて」キャンペーンを着実に実行していく
【学術】 「少年少女化学教室」を年1回以上実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・開催実績／12回347名（倉敷2回、西条3回、岡山2回、新潟2回、鹿島2回、鶴海1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実行できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で年1回以上実施する ・社外のイベントへの出展
【福祉】 知的障害者の作業施設の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者の作業施設の運営・雇用人数 障害者：55名 指導員：13名（新潟/西条/倉敷/鹿島の合計） 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実行でき、雇用数を維持することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・現作業施設での雇用者数の維持 ・岡山事業所での運営開始
【文化】 【学術】 【環境】 【福祉】 ・事業所・関係会社において、地域とのつながりに重きをおいた既存活動を着実に実行する ・海外拠点も含め、グループの活動状況を一元的に把握する	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の活動に着実に取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・従前より取り組んできた活動の継続実施を着実に実行できた ・海外拠点の活動状況の集約を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の継続実施 ・海外拠点も含めたグループ全体の活動状況を継続して把握する

クラレグループは、社会の健全で持続可能な発展が企業としての成長や繁栄の条件であるとともに、企業活動の究極の目標であると考えます。人々にとって価値のある製品や事業を通して社会に貢献することはもちろん、企業市民として積極的に社会的な問題に取り組むことは、企業として重要な活動であると認識しています。

クラレグループ社会貢献活動方針に則り、文化・学術・環境・福祉分野を中心に活動しています。

なお、2019年度における寄付が売上に占める割合は0.01%となりました。

(※寄付以外の社会貢献活動に伴う費用は算出しておらず、上記の%に含まれておりません)

社会とのかかわりの目標と実績

クラレグループ社会貢献活動方針

クラレグループは、社会の一員としての責任を果たすため、以下の方針に基づき、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

活動のあり方

- 社会的な課題の解決につながる活動
- 国内外の事業拠点の地域社会に根ざした活動
- 社員の主体的参加を重視した活動
- 長期的に持続可能な活動

活動の領域：「文化」「学術」「環境」「福祉」を重点領域とする。

文化

クラレグループは、初代社長の大原孫三郎が設立した公益財団法人大原美術館の支援を継続的に実施すると共に、事業所での文化活動の支援も行っています。



公益財団法人 大原美術館



岡山：絵画・書道コンクール

岡山事業所では、2005年から「小学生絵画・書道コンクール」を毎年開催しています。本コンクールは、日頃の成果を発揮する場として定着しており、2019年度は事業所近隣の5つの小学校から絵画・書の作品合わせて329点の作品応募がありました。今後も継続して取り組んでいきます。

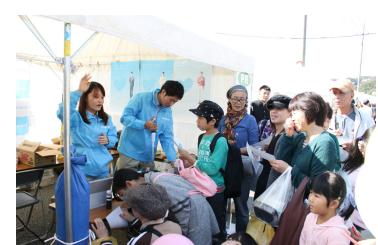
学術

従来の活動を継続支援することによる健全な青少年育成を目標に、各事業所での「少年少女化学教室」の開催、社外イベントへの参加、スポーツ大会の主催などを実施しています。

子どもたちに化学実験を通して、化学の楽しさを知ってもらう教育活動として、小学生を対象に「少年少女化学教室」を開催しています。この取り組みは、事業所内の専門教室や、地域の小学校、公共施設などで、社員ボランティアが講師やアシスタントを務めるもので、1992年より毎年国内の各事業所で開催しています。2019年度は、各事業所で合計9回、のべ347名にご参加いただきました。また、鶴海事業所では備前市産業フェスタに出展し活性炭を使った実験を披露しました。今後も継続して取り組むとともに、社外のイベントにも積極的に参加します。



倉敷：おもしろかがく館



鶴海：備前市産業フェスタ

事業所	教室名	累計	累計参加人数

事業所	教室名	累計	累計参加人数
倉敷事業所	おもしろかがく館	75回	1,951名
西条事業所	わくわく化学教室	80回	2,336名
岡山事業所	おもしろ化学教室	49回	1,479名
新潟事業所	ふしぎ実験室	61回	1,659名
鹿島事業所	おもしろ化学教室	29回	1,614名
鶴海事業所	出張授業など	4回	293名
合計		298回	9,332名

青少年育成の観点から、各事業所でスポーツ大会を開催しています。各事業所で各種スポーツ大会等を主催しています。また、会社の保有する野球場・体育館・テニスコートを近隣の住民に開放し、地域スポーツの振興に努めています。今後も継続していきます。



岡山：クラレカップ スポーツ大会



鹿島：ふれあいレクリエーション

環境

森林保全活動や清掃ボランティアを毎年実施しています。森林保全活動として新潟事業所の「ミラバケッソの森づくり活動」を実施しています。また、全ての事業所で清掃ボランティアを継続して行っています。グループ会社においても事業所周辺の清掃活動などを定期的に行ってています。

クラレの各事業所では、自治体・NPO法人と連携して、社員ボランティアによる公園や道路の清掃、保育園園庭の芝刈り等の活動にも取り組んでいます。



新潟：ミラバケッソの森づくり活動



倉敷：溜川清掃ボランティア活動

福祉

知的障がい者の就労支援・雇用数の維持・定着を図ることとクラレふれあい募金の実施を目標に、倉敷事業所、西条事業所、新潟事業所、鹿島事業所での知的障がい者の作業施設の運営、また各事業所でクラレふれあい募金の寄付などを実施しています。また西条事業所と新潟事業所では桜の開花時期に合わせて観桜会を開催しており、近隣の福祉施設の方に来場いただきました。今後も継続していきます。



西条：観桜会

クラレは、障がい者に雇用機会を提供することによって、その自立を支援するため、地域の福祉施設と連携して知的障がい者のための作業所を設置しています。新潟事業所の「クラレ作業所」は、1997年に中条町（現・胎内市）と社会福祉法人七穂会「虹の家」の協力を得て、知的障害者就労の場として開所し、生産工程で発生する端材をリサイクルするための分別や、備品の製作などを行っています。2007年には西条事業所の「ひまわり作業所」が開所、2011年には、鹿島事業所で、社会福祉法人神栖啓愛園の支援により「あおぞらワークス」を開設しました。倉敷事業所で作業服のクリーニング・製品のラベル貼付作業に従事している社員を含めると、4つの作業所で、あわせて12名の指導員と43名の作業員が働き、様々な業務に従事しています。また社員とスポーツイベントなどを通じて交流しています。今後も引き続き運営を継続し、雇用の維持・定着を図ります。



新潟：クラレ作業所



鹿島：あおぞらワークス

	作業内容
倉敷	作業服のクリーニング、製品のラベル貼付
西条	製品のリサイクル、作業服のクリーニング
新潟	製品のリサイクル、鍋敷・エプロンの製作、作業服のクリーニング
鹿島	製品の包装袋の二重化、異物選別

クラレでは、従業員の寄付金に、その同額を会社がプラスして行う寄付制度であるマッチングギフトを、「クラレふれあい募金」の名称で1992年7月からスタートしました。制度に賛同する従業員が月次給与100円未満の端数を積み立て、その同額を会社が拠出します。集まったお金は基金として、社会福祉に役立てるよう活用しています。各事業所の近隣にある福祉施設や自治体、学校を中心に、介護用品や図書等を寄贈するなど、地域に根ざした活動を行っています。今後も引き続き、基金を社会福祉に役立てていきます。



西条：ふれあい募金によるクラレ文庫

Focus : 海外事業所の社会活動

クラレグループでは海外においても「文化」「学術」「環境」「福祉」分野で様々な社会活動を継続して行っています。その中から、ヨーロッパ、アメリカの活動をご紹介します。

福祉「学術」分野の活動 - 次世代の科学者を創る支援

クラレヨーロッパでは、今年も地元の高校の先端化学コースで学ぶ7人の生徒と先生をポバール工場に招き、工場見学や高分子化学の講義、実験を通じて活発な交流を図りました。彼らは高校での報告の後、クラレヨーロッパで成果発表会を行いました。学生たちはとてもよく準備をし、質問にもてきぱきと答えていました。参加者たちは「化学反応のメカニズムがとてもよく理解できた」「参加する前は実際に研究室で働く事がどんなものか、何が重要なのかわからなかったけど、それを化学工場の現場で体験できた機会にとても感謝している。」とコメントしています。



米国のモノソルでも、次世代の科学者を育てるることはとても重要なことだと考えており、科学、技術、工学、数学（S T E M）教育の支援に力を入れています。その一環として、モノソルの研究者チームが、ノートルダム、バトラー、またバルバラーズ大学といった一流校で、科学コンテストの審査員を務めたり、高分子化学のクラスで教えたりしています。この取り組みで重要なことは、学生に“科学は楽しい”と思ってもらう事です。またモノソルチームはインディアナ州の毎年恒例の“科学の祭典”に出演し、ポリビニアルコールフィルムで作った製品を展示したり、業界挙げての安全運動を推進したり、子供たちがポリビニアルコールから“スライム”を作るのを手伝ったりしながら、学生や保護者の皆様に楽しんで頂きました。



同じ米国テキサス州では、クラレアメリカがサンジャシントカレッジCPET基金（San Jacinto College“SJC”）のLyondellBasell Center for Petrochemical、Energy、& Technology（CPET）に参画しています。この基金は化学業界の高まる人材需要に対応する高度なトレーニングを提供しています。クラレアメリカは、2018年に開始されたこの基金への10年間の寄付を約束しています。このスポンサーシップの一環として、CPETの化学研究所はクラレにちなんで名付けられました。クラレアメリカではSJCの卒業生をプロセスエンジニアとして数多く採用しており、これからも化学業界への貢献を続けます。



「環境」分野でのボランティア活動

プラスチック汚染についての問題意識が高まる中、ベルギーのエバールヨーロッパは「Operation Clean Sweep」に参加しました。この国際的なボランティアプログラムは、化学業界における製造から廃棄までのサプライチェーンにおいて、プラスチック（ペレット）が排出され水系環境への流出による海洋ごみを防ぐために運営されています。

Operation Clean Sweep



モノソルは環境問題に積極的に取り組む姿勢を示すべく、地元の道路の1マイル区間のゴミ拾いを行っています。有志社員はドライバーに目につくように蛍光ベストを着用して安全に配慮しながら、チームで和気あいあいと道路わきのゴミを拾い地域の美化に努めています。

クラレアメリカは、NPOテキサス保全基金Texas Conservation Fund (TCF)を支援し、地元水路の清掃を手伝っています。TCFは実践的な教育ツールを活用し、環境、政府、民間のパートナーシップを構築することにより、公共教育を通じて流域の環境管理を促進することを使命としています。クラレアメリカの環境安全チームは清掃イベントにブースを出し、飲料水と手の消毒剤を配り参加者をねぎらいました。



「福祉」チャリティー分野での活動

情熱あふれるエバールヨーロッパ8人からなるサイクルチームチームが、「がんと闘う1000 kmサイクリング」と呼ばれるがん研究のための資金調達プロジェクトに参加しました。

このプロジェクトに参加するために必要な募金資金5000ユーロを、社内のソーシャルイベントでガジェットの販売、ケーキやチョコレートの販売、くじ引きなど社員の協力のもと、さまざまな方法で集めることができました。



クラレヨーロッパの従業員42名がフランクフルトの学校、幼稚園支援プロジェクト「外に出よう-緑の中で教えよう」"Go outside - teaching in the Green"に参加し、校庭で壁を修理、掃除、塗装し、また25人分の可動式シート、いわゆる「スウェーデンの椅子」を制作し、子供たちの「グリーンレッスン」の準備をしました。トロイスクルフでは2つの幼稚園「ハイデパンツ」と「ブルゲンツ」で同様にたくさんの作業を行いました。この2つの幼稚園は統合されたばかりで、例年より多くの作業がありました



が、参加者は力を合わせてやり遂げ、大きな達成感と地域社会とつながるチームスピリットを堪能しました。

Focus：ランドセルは海を越えて

「ランドセルは海を越えて」は、戦禍によって教育機会を奪われたアフガニスタンなどの子どもたちに、毎年、日本の小学生が使っていたランドセルを文房具や手紙を添えて贈る国際貢献活動で、これまでアフガニスタン・モンゴル・ネパール・カンボジアで活動実績があります。

2004年のスタートから16年目を迎えた2019年度は、全国各地から7938個のランドセルの提供がありました。このランドセルは、関係団体やクラレグループ社員の手で梱包した後、多くのボランティアの協力を得て海を渡り、10月～12月にかけてアフガニスタンのナンガハール州にある46の小学校で学用品と合わせてプレゼントされました。今までの累計は、127,993個になりました。今後、他の国にも支援の輪を広げたいと考えています。



年度	個数	年度	個数
2004年度	8,514	2012年度	8,326
2005年度	12,076	2013年度	6,396
2006年度	5,504	2014年度	7,908
2007年度	6,894	2015年度	7,111
2008年度	7,022	2016年度	7,732
2009年度	7,522	2017年度	6,857
2010年度	8,973	2018年度	8,076
2011年度	11,144	2019年度	7,938
		累計	127,993

会社概要	事業から探す	基本方針	企業ステートメント	経営方針
ごあいさつ	製品名から探す	技術と製品	クラレグループ行動規範	IRニュース
企業ステートメント	キーワードから探す	組織・体制	クラレグループ人権方針	クラレって?
役員	製品のはてな	歴史	トップステートメント	業績・財務情報
組織図		トピックス	サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画	IRライブラリー
沿革			クラレグループのマテリアリティ	株式情報
主な受賞歴			GRIスタンダード対照表（内容索引）	IRカレンダー
主要グループ拠点			クラレレポート（統合報告書）/サステナビリティウェブサイト	よくあるご質問
会社案内動画				
テレビ番組動画			ランドセルは海を越えて	
広告ギャラリー			イニシアティブ	